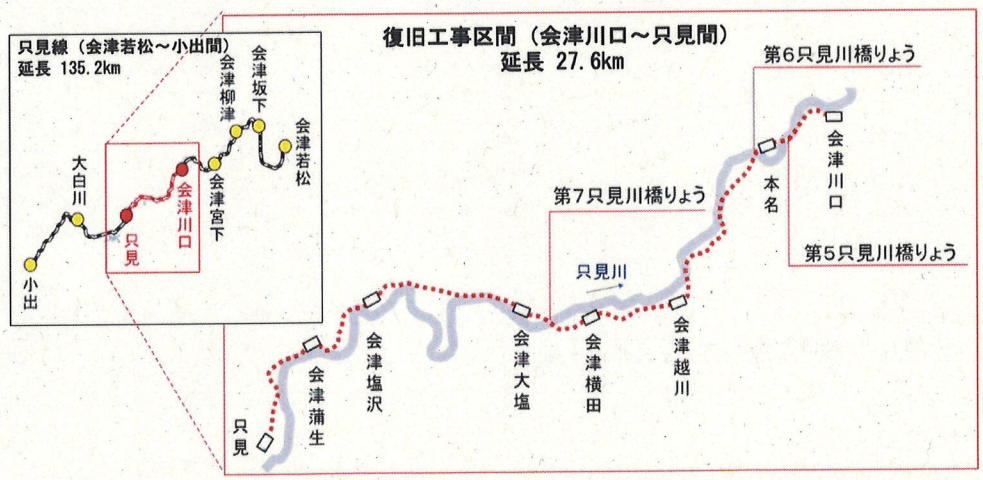
只見線の歴史

1926(大正 15)	「会津線」として、会津若松駅から会津坂下駅間（21.6 ㎞）が開業される。
1942(昭和 17)	「只見線」として新潟県小出駅から大白川駅間（26.6 ㎞）が開業される。
1957(昭和 32)	電源開発株式会社が田子倉ダム（只見町）建設の資材を輸送するための専用鉄道として、会津川口駅から只見駅間が開通。
1971(昭和 46)	只見から大白川駅間（20.8 ㎞）延伸開業。会津若松駅から只見駅間を会津線から分離し、『只見線』に統合。会津若松駅から小出駅間 135.2 ㎞となる。
2011(平成 23)	**3 月 11 日** 東日本大震災発生。7 月 27 日～30 日新潟・福島豪雨災害により只見線に被害。会津川口～会津大塩間で第 5・6・7 只見川橋梁が流失、また会津坂本～会津柳津間で路盤が流出し、会津坂下～小出間が不通となる。 **8 月 7 日** 会津坂下～会津宮下間で運転再開。 **8 月 11 日** 大白川～小出間で運転再開。 **12 月 3 日** 会津宮下～会津川口間で運転再開。
2012(平成 24)	只見～大白川間で運転再開。これにより、不通区間は会津川口駅～只見駅間となる（代行バス運転あり）
2017(平成 29)	福島県と JR 東日本は、会津川口～只見間を上下分離方式により鉄道で復旧することで合意。
2018(平成 30)	JR 東日本において鉄道復旧工事起工式が金山町で執り行われ、2021 年度の工事完了を目指し復旧工事が開始。
2022(令和 4)	**10 月 1 日**　全線運転再開予定

只見線ポータルサイト(https://tadami-line.jp/history/)を参考に作成

2011 年新潟・福島豪雨災害の被害における

■只見線復旧工事区間



2022 年 5 月 18 日 福島県/JR東日本 仙台支社只見線全線運転再開について リリースより引用